

代 表 者

陳 情 報 告 書

平成 31 年 2 月 1 日

同志会幹事長  
平 岡 正 人 殿

呉市議会議員

平岡正人  
梶山裕孝  
渡辺一穂  
石塚元成  
神田隆彦  
林田浩秋  
谷 恵介

次のとおり陳情活動をしたので報告します。

1. 陳情日  
平成 31 年 1 月 23 日 (水)
2. 陳情先  
東京都
3. 陳情項目
  - ・ 交通網の整備及び強靱化要望
  - ・ 平成 30 年度特別交付税の増額配分要望

●交通網の整備及び強靱化要望

【時 間】

11:00～11:30

【陳情先】

地元選出国會議員

衆議院議員 寺田 稔

参議院議員 溝手 顕正

※当日は、豪雨災害復興応援フェアが開催され呉市も参加していたことから、陳情終了後、同席した。

【参加議員】

平岡 正人，石崎 元成，神田 隆彦，林田 浩秋，谷 惠介

【陳情内容】

平成30年7月豪雨災害によって国道31号，国道185号，国道375号，広島呉道路，東広島呉自動車道，さらにJR呉線など，本市の生命線ともいえる交通網が至るところ寸断され，本市はまさに陸の孤島と化した。

それに伴って市内各所では，深刻な交通渋滞が発生し，人々の移動はもとより，物流面においても大きな支障を来し，災害時における本市の都市基盤の脆弱さが浮き彫りとなった。

近年，全国規模で多発する異常気象に対して，災害に強いまちづくりを推し進めるためには，道路交通網の整備とその強靱化は最も重要かつ必要不可欠であり，本市住民が切望するところでもある。

そこで，広島市と呉市を結ぶ広島呉道路（クリアライン）の4車線化に向けた国による強靱化の路線指定，現在，4車線化工事を行っている休山トンネルの確実な開通，さらに，広島県内で最も危険な交差点と言われ，国道185号と東広島呉自動車道との結末点である先小倉交差点の立体交差化の早期完成を，地元選出国會議員に強く要望した。

●平成30年度特別交付税の増額配分要望

【陳情時間】

13:00～17:30

【陳情先】

- ・7人全員で地元選出国會議員へ要望

衆議院議員 寺田 稔, 齊藤 鉄夫

参議院議員 溝手 顕正, 宮澤 洋一, 柳田 稔, 森本 真治

は本人在室, 直接要望

- ・平岡幹事長が会派を代表して, 呉市長, 呉市議會議長とともに要望

財務省: 麻生太郎財務大臣をはじめ, 9名へ要望

総務省: 石田真敏総務大臣をはじめ, 15名へ要望

- ・平岡幹事長以外の6人で地元選出国會議員へ要望

衆議院議員 河井 克行, 杉田 水脈, 平口 洋, 新谷 正義

【参加議員】

平岡 正人, 梶山 治孝, 渡辺 一照, 石崎 元成, 神田 隆彦,

林田 浩秋, 谷 恵介

【陳情内容】

本市は平成30年7月豪雨災害により, 市内各所で土砂崩れや土石流, 河川の氾濫, 浸水等が発生し, 甚大な被害を受けた。その結果, 25名もの尊い命が失われたほか, 3,000件を超える家屋被害により, 今もなお多くの市民が仮設住宅での生活を強いられている。また, 道路や河川, 上下水道施設等のインフラや小中学校及び市民センターなどの公共施設が被災したほか, 大量の土砂やがれき等の災害廃棄物が発生するなど市民生活に大きな支障が生じている。

こうしたインフラや公共施設等の復旧や災害廃棄物の処理, 被災者の生活再建支援等への災害関連予算の規模は膨大なものとなっており, すでに本市の予算規模の3分の1に相当する325億円に達しており, これに要する一般財源として財政調整基金を約56億円取り崩し, 残高は約10億円となる見込みであるなど, 本市財政は極めて厳しい状況となっている。

このような状況においても, 被災された市民の方々が一日も早く被災前の当たり前の生活を取り戻し, 災害に強い安全・安心なまちづくりを実現し, 定住へとつなげていくために, 豪雨災害からの復旧・復興やインフラの強靱化をはじめとする防災機能の向上に加え, 子育てしやすい環境づくりや産業振興など, 魅力あふれる生活環境づくりに向けた取組を進めていく必要がある。

そのため、健全な自治体運営を行う上で必要不可欠な財源である特別交付税の本市への配分については、70億円を確保していただくよう、地元選出国会議員をはじめ、財務省、総務省等関係機関に対し強く要望した。